ノンカテゴリーでの指導

回答

幼児言語　　４４教室　９６名

難聴　　　　　１教室　　１名

中学発達　　１４教室　２５名

小学校発達　５３教室　８９名

肢体不自由　　１教室　　２名

児童言語　　４５教室　８０名

Ｑ３９　言語と発達両方をノンカテゴリーで指導歓迎可能人数

小学校発達　　５３教室　　８９名　　１８名　　　　２０％

児童言語　　　４５教室　　８０名　　３３名　　　　４１％

合計　　　　　９８教室　１６９名　　５１名　　　　３０％

小学校発達

・少なくとも言語通級経験者、もしくは言語聴覚士の資格の持ち主でなければ、「してもよい」とは言えないと思う。

児童言語

・45分の組み立てとして、あれもこれもだと薄まってしまう。構音なら構音で組みたい。また、この主訴が緩和されたから次はこれ、とやっていくと、ずっと在籍し続ける終われない子になってしまう。

Ｑ４０言語と発達が同一校・同一市町に設置されていて良かったこと

幼児言語

・構音は改善したが、他の面で気になる子の情報交換ができる

　・発達に課題がある子供の保護者の相談を聞いてもらった。

・指導教材が共有できる。

・言語と発達だけでなく、幼児も併設されていることで、共有や相談ができる。

・幼児ことばの教室で指導していた児童が進学する際に、発達通級に紹介しやすかったり、情報提供、共有がしやすかったりした。

　・子供の表われを相談できました。

　・障害を併せ持つ子が増えているので関わり方を相談することができてよかった。

・情報交換ができる。"

難聴

・回答なし

中学発達

・お互いの指導方法の共有、児童生徒の見立て理解が有効、教材が共有、保護者対応、在籍校や市教委に対し各教室の規程やあり方を提示し、統一できた

小学校発達

・言語から発達への移行

　・情報交換、サービス通級児童への教材教具提供

　・同一市町　他市に行かずに通級指導を受けられる。

　・情報交換がしやすい

・言語の先生方が発達につなげてくださる例がある。

・情報交換等

　・すみわけがきちんとされることで、適した指導ができる。

・気軽に相談できる。

　・情報交換できる

・同一市内に設置。今年度から一緒に研修する機会を作った。情報交換ができたり、発達なのかことばなのかで悩むお子さんについて話し合ったりすることができた。

・通級指導者間で情報交換が可能。学級での気になる児童についてアドバイスをもらった。

　・言語通級後に発達通級に通う子がいるときに、連携がしやすい。

・言語指導の仕方などを教わることができる。"

　・通級担当新任の方をサポートできる。

　・両方の視点で児童を見ることができる、お互いの指導を参観してスキルを高められ情報交換ができる。

　・情報交換

・児童の課題による移行

・ことばの誤りを見つけてもらえる

・どんな支援をしたらよいかその場で担当も保護者も見方や指導方法等アドバイスをもらえる

・教材がたくさんある

・幼児の言語も含め、１人の児童を多様な視点で観察することができる。"

・校内の就学支援を考えるときに検討しやすい。

・ことばの表出や語彙についてなど、言語通級担当者と一緒に研修ができる点

・具体的な指導方法を情報交換できること

　・相談ができる

・仕事を分担できる

・すぐに相談ができる。

・言語面で悩んだり、困ったりしたときに適切なアドバイスをいただけたり、幼児ことばに通っていて、発達につながる場合が多いため、情報交換ができる。

・低学年で読み書きに困難さがある場合、特に保護者が発達障害を受け入れられないケース等では、言葉の教室の言語発達遅滞の枠で、毎週の個別指導を受ける形でスタートするケースがある。また、言葉の教室で主訴が改善され、退級した場合、コミュニケーションの課題が残るケースでは、発達通級に繋がる場合があった。

・相談ができる。

　・兄弟での利用がしやすい。

・研修の幅が広がる。"

・お互いの指導内容や指導方法を知ることができた。

・言語からLD通級への移行支援がスムーズにできる。

　・児童の情報や支援方法の共通理解

肢体不自由

・回答なし

児童言語

　・通級連絡会で情報交換したり、発達の研修に参加できたりする。

　・言語指導が終了し、発達障害指導を実施したいときに指導の継続引き継ぎが容易、同一校にあればなお容易。

・言語・発達・幼児が同一校にあるが、円滑な研修ができる、情報交換がスムーズ、同一部分も多いので予算や設備の無駄が減る

・情報交換しやすい

・どちらも併せ持っている状態で発達、言語のいずれかに入級している場合はどのような指導をすればいいか情報交換ができる。どちらに入級するほうがその子のためになるかじっくり相談して進める方向性を確認できる。

・同一市町にはあるが連絡ややり取りは特になく、良かったことも特にない。それぞれ独立して

いる。

・情報交換ができる。

・同じ通級担当として情報交換ができる。指導法を教えてもらえる。

　・情報共有ができる、言語に通っているが、特性のある子への指導方法などアドバイスをもらえる。

・担当者が増え、地区のニーズに応えられる

・言語のクラスで構音障害に発達性の障害が考えられるとき、相談に乗ってもらえる。

・双方の情報交換ができる。研修が深まる。

・児童の様子から指導法のアドバイスがもらえる。教材等がたくさんある。

・発達教室の指導の様子を知ることができた。室内研修では、発達の先生の児童への見方・考え方を学ぶことができた。発達障害を併せもつ児童がいた際、すぐに相談することができた。

・連携をとることができる。

・情報の共有ができる。"

・情報交換、教材研究、検査方法の演習など、協同できること

・困ったケースは気軽に相談できる。必要ならば移行できる。

・言語に来ていても発達の課題のあるお子さんもいます。教材が共有できるのはありがたいです。

・言語と発達をあわせてもっている児童の相談ができる。

・発達を併せ持った児童のことを相談できる。まなびの教室のことを保護者に説明しやすい。

・言語には発達障害を併せ持っている児童が多いので、発達担当がいると相談できる。教材も共有できる。

・情報共有　指導法共有

・いろいろな困難を併せ持つ子供が多いため、情報提供やアドバイスをし会うことができ、より良い指導をするのに役立った。

・お互いのことが話せて、理解が深まる

　・同一校に設置されているが、発達に心配をかかえるお子さんがことばに来た時に、LD等教室の先生に相談にのってもらえるのがよかった。

・同一校ではないが、市内に両方あることで、指導の棲み分けができるのが良いと思う。

・指導の様子を参観させてもらった。

　・相談しながら通級の運営や指導、研修ができる